

2018年3月期 第1四半期決算の概況



2017年7月21日(金)

モーニングスター株式会社
代表取締役社長 朝倉 智也

Part 1

決算の概況

連結業績

営業利益、経常利益、当期利益は8期連続の増益、5期連続の最高益

(単位:千円)

	2017年3月期 第1四半期 (2016年4月～6月)	2018年3月期 第1四半期 (2017年4月～6月)	増減率(%)
売上高	1,280,418	1,551,405	21.2
営業利益	496,347	532,900	7.4
経常利益	496,432	535,831	7.9
当期利益	334,201	356,912	6.8

※当期利益は、親会社株主に帰属する四半期純利益を意味する。

(注)営業利益、経常利益は、四半期ベースで過去最高

(単位:億円)

<投資信託の純資金流入額>

	2017年3月期 第1四半期 (2016年4月～6月)	2018年3月期 第1四半期 (2017年4月～6月)	増減率(%)
公募追加型株式投信 (ETF除く)の純資金流入額	8,037	1,721	△78.6

※出所:投資信託協会のデータよりモーニングスター作成

<東証の出来高>

(単位:億株)

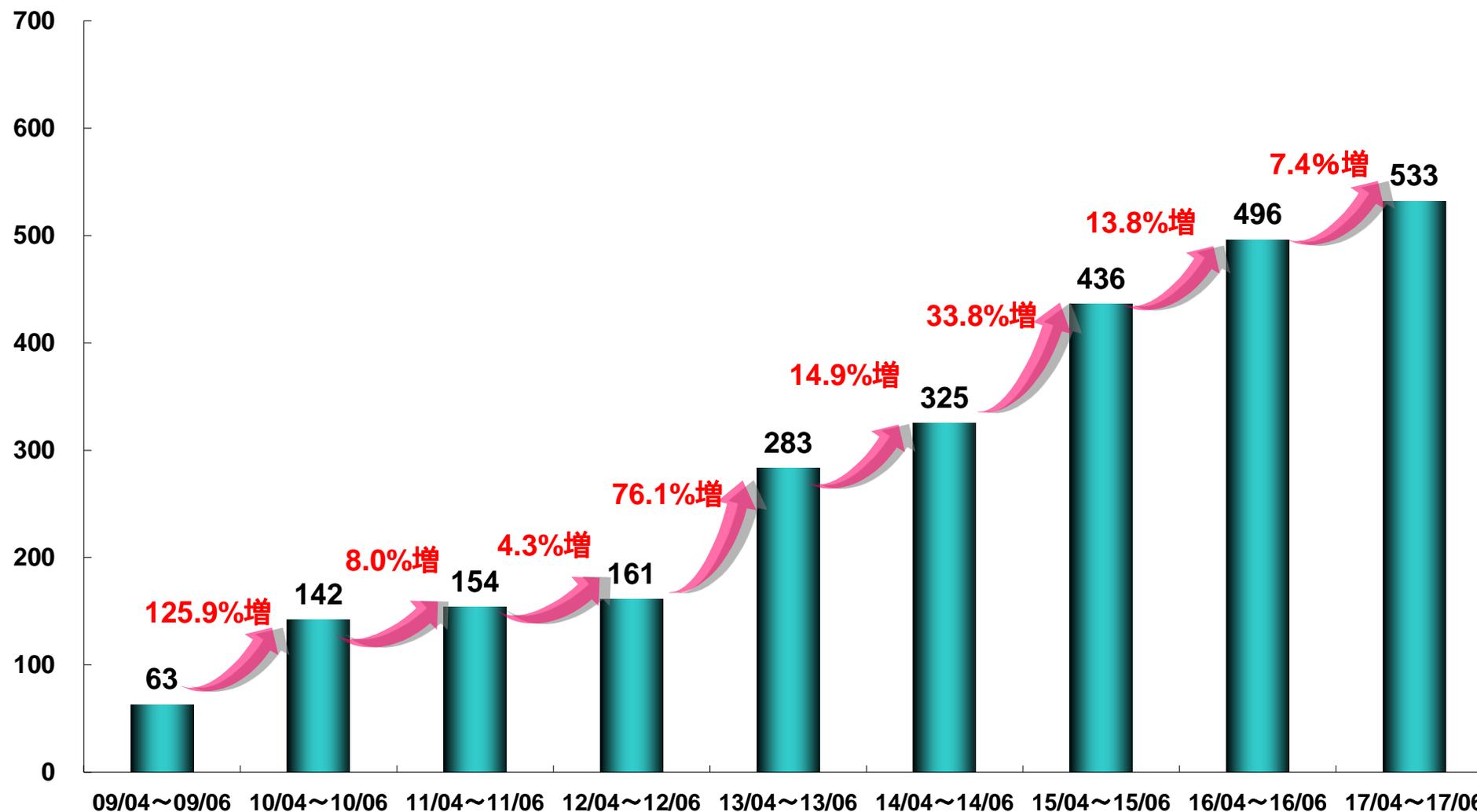
	2017年3月期 第1四半期 (2016年4月～6月)	2018年3月期 第1四半期 (2017年4月～6月)	増減率(%)
出来高			
東証1部	1,285.1	1,155.5	△10.1%
全市場	1,449.7	1,371.8	△5.4%

※出所:東証のデータよりモーニングスター作成

第1四半期の営業利益の推移

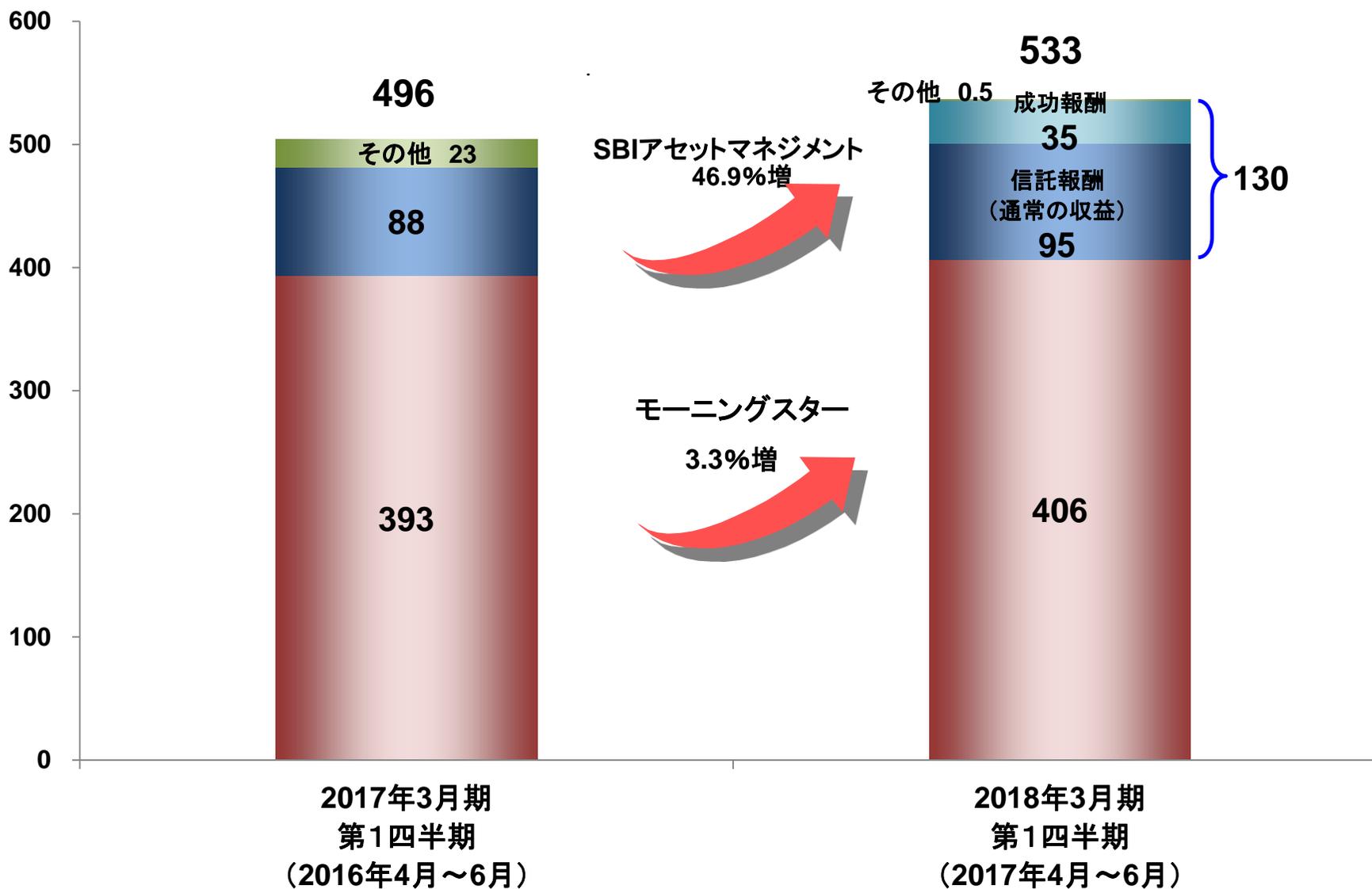
8期連続の増益、5期連続の最高益

(単位:百万円)



連結各社の営業利益の増減

(単位:百万円)



※ 連結消去の記載は省略。

主要なサービスの売上高の増減

(単位:千円)

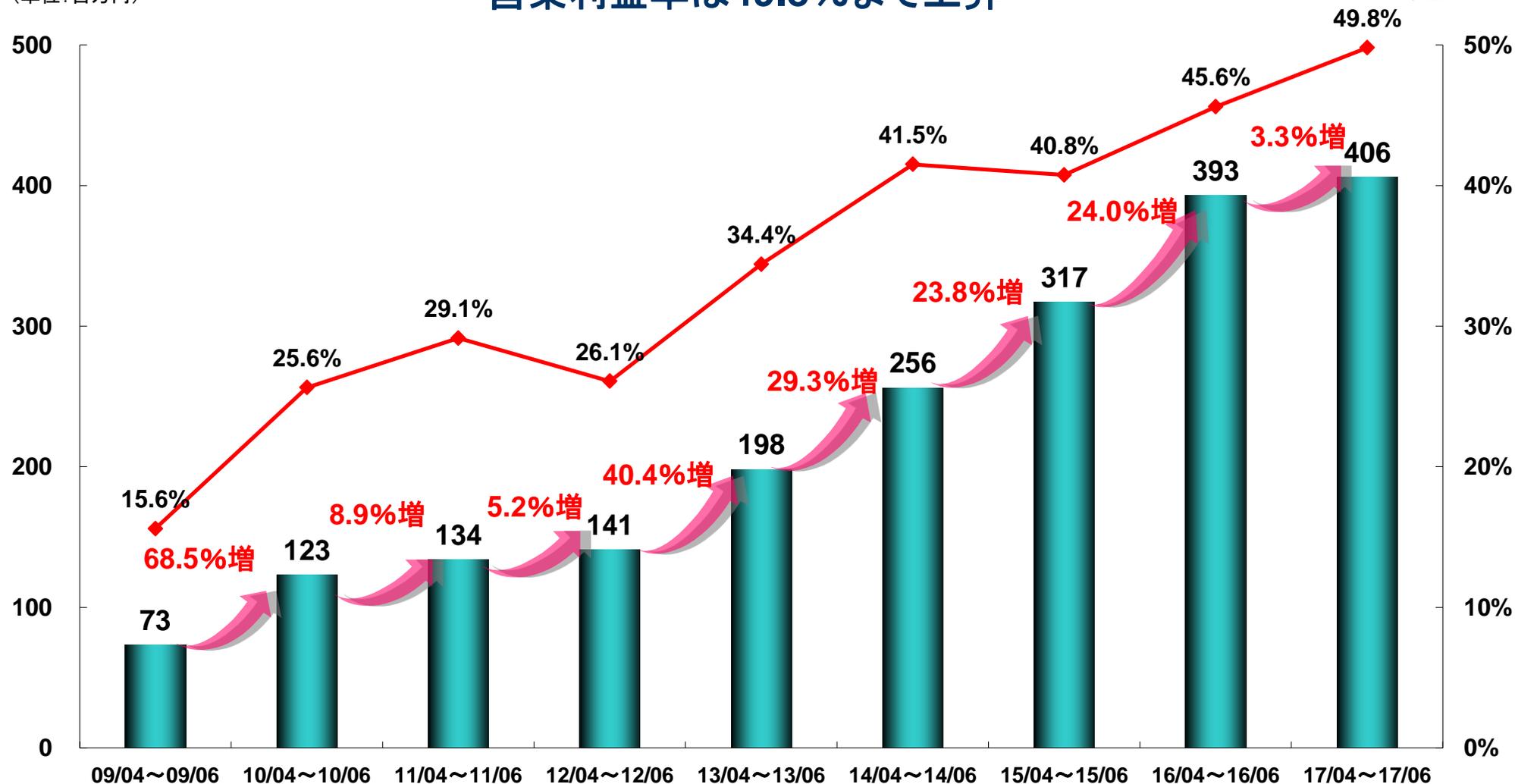
セグメント	サービス名称	2017年3月期 第1四半期 (2016年4月～6月)	2018年3月期 第1四半期 (2017年4月～6月)	増減率 (%)
データ・ソリューション	タブレットアプリ関連データ	79,475	87,548	10.2
	フィンテック関連ツール	37,350	44,638	19.5
	PC向けデータ	139,791	130,837	△6.4
	ファンド・レポート	76,452	87,023	13.8
	株式新聞購読料	71,838	66,044	△8.1
メディア・ソリューション	ウェブ広告&資産運用セミナー	224,779	225,038	0.1
	Webコンサルティング (ゴメス・コンサルティング)	117,522	72,009	△38.7
アセット マネジメント	運用報酬 (SBIアセットマネジメント)	405,687	460,476 (通常の運用報酬)	13.5
			279,757 (成功報酬)	—
			740,234	82.5

モーニングスター単体第1四半期の営業利益の推移

8期連続の増益、6期連続の最高益
営業利益率は49.8%まで上昇

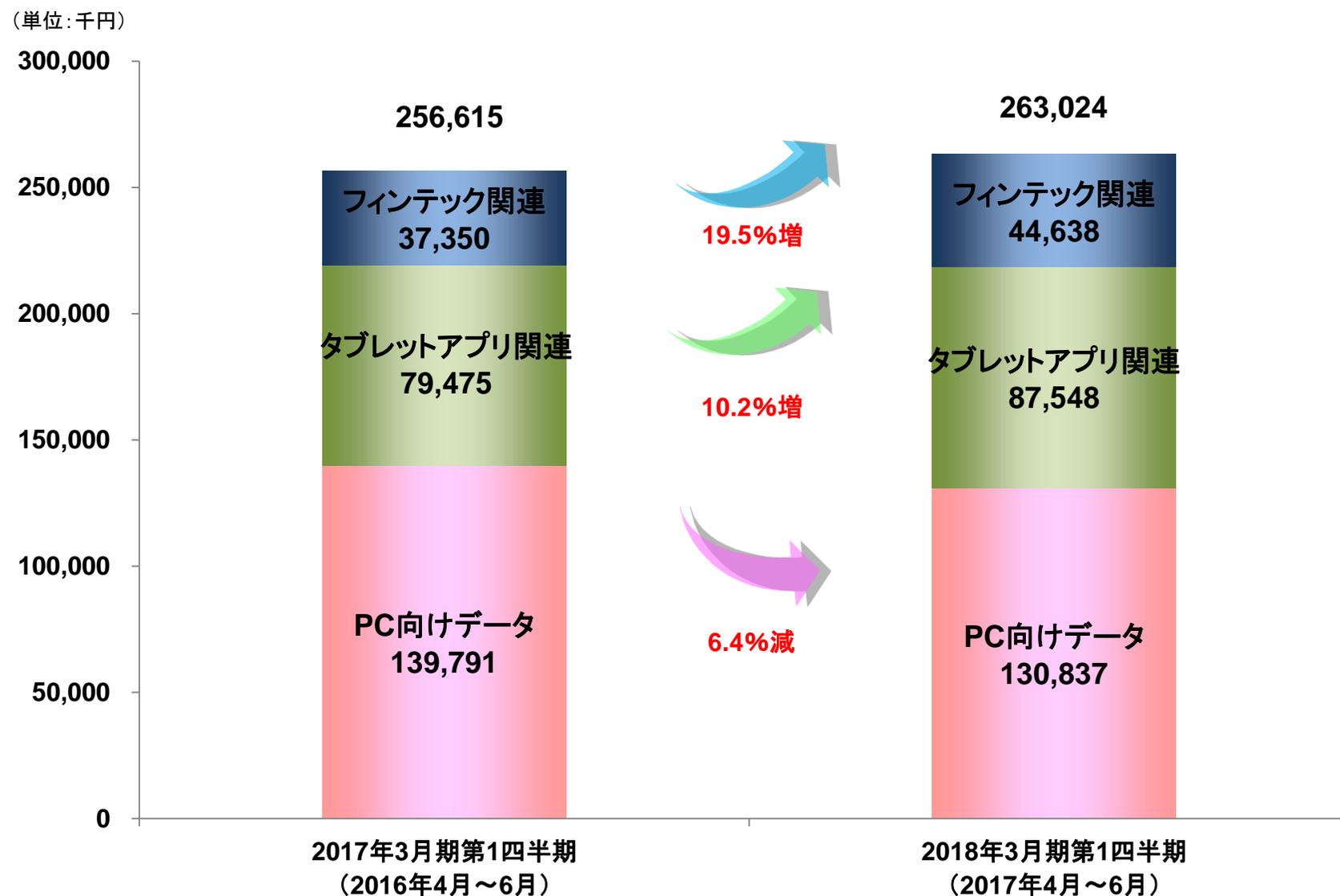
(単位:百万円)

(単位:%)



拡大を続けるファンドデータの売上高

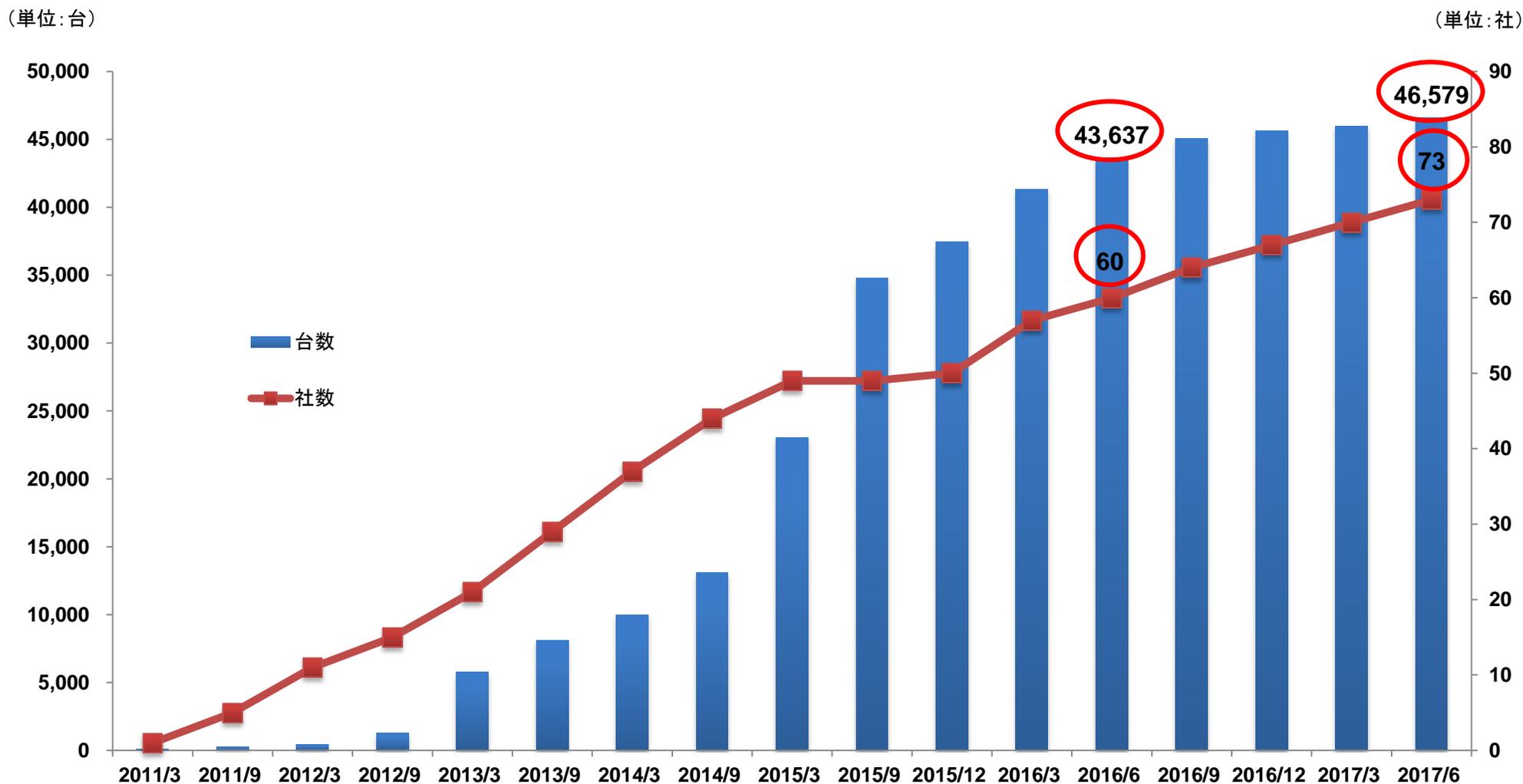
フィンテック関連が19.5%増の急成長、タブレットも堅調に増加



タブレットアプリの提供社数及び提供台数

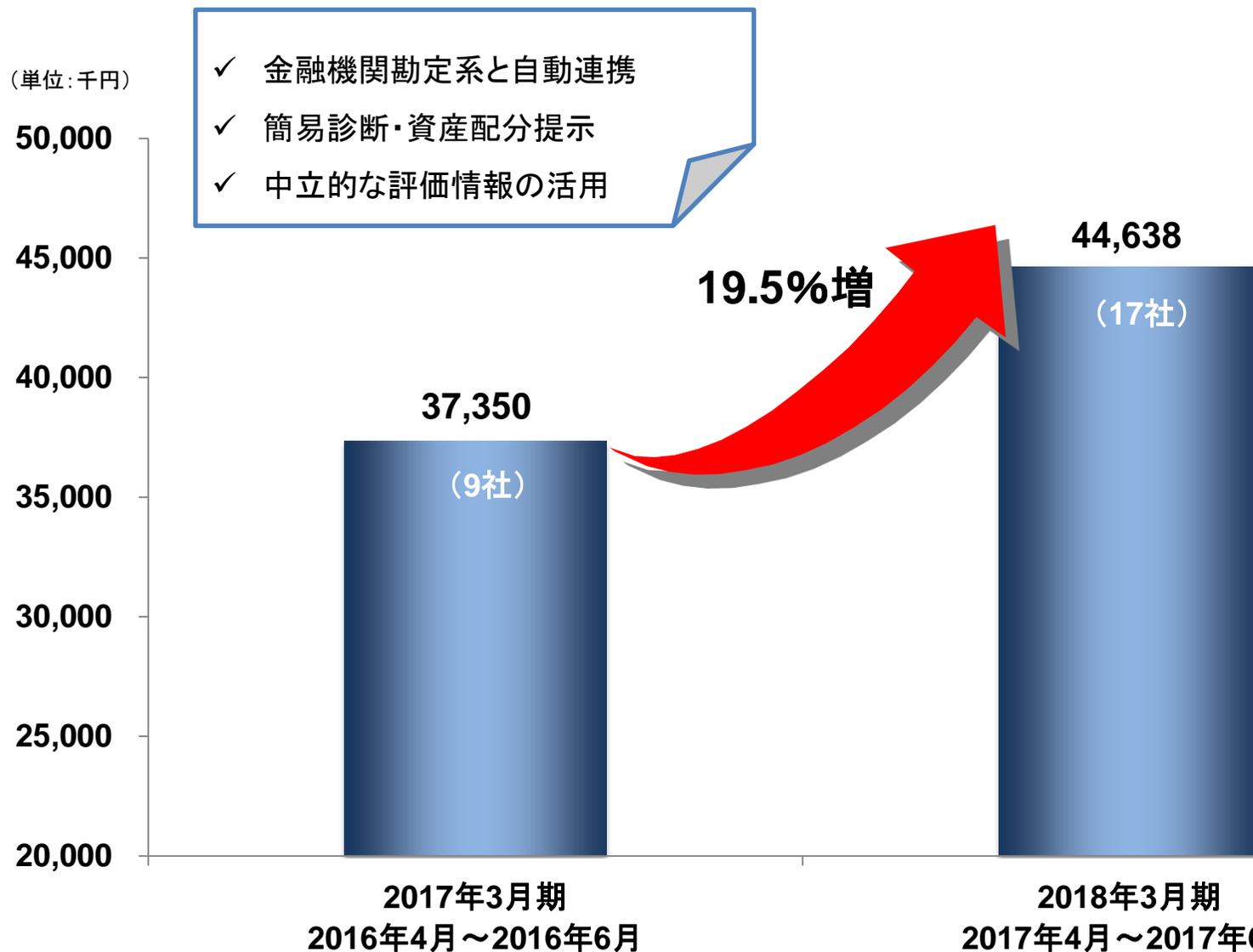
(2017年6月末時点)

提供社数: 73社 提供台数合計: 46,579台



フィンテック関連(ロボ・アドバイザー)ツールの売上高が大幅に拡大

＜FinTech関連事業の売上高＞



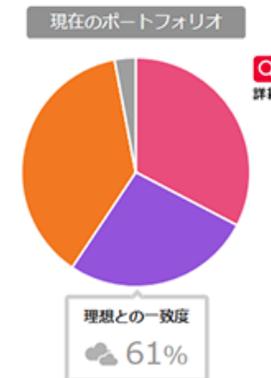
金融行政指針に則った
顧客本位の提案



スクレイピング等の
FinTech技術の活用



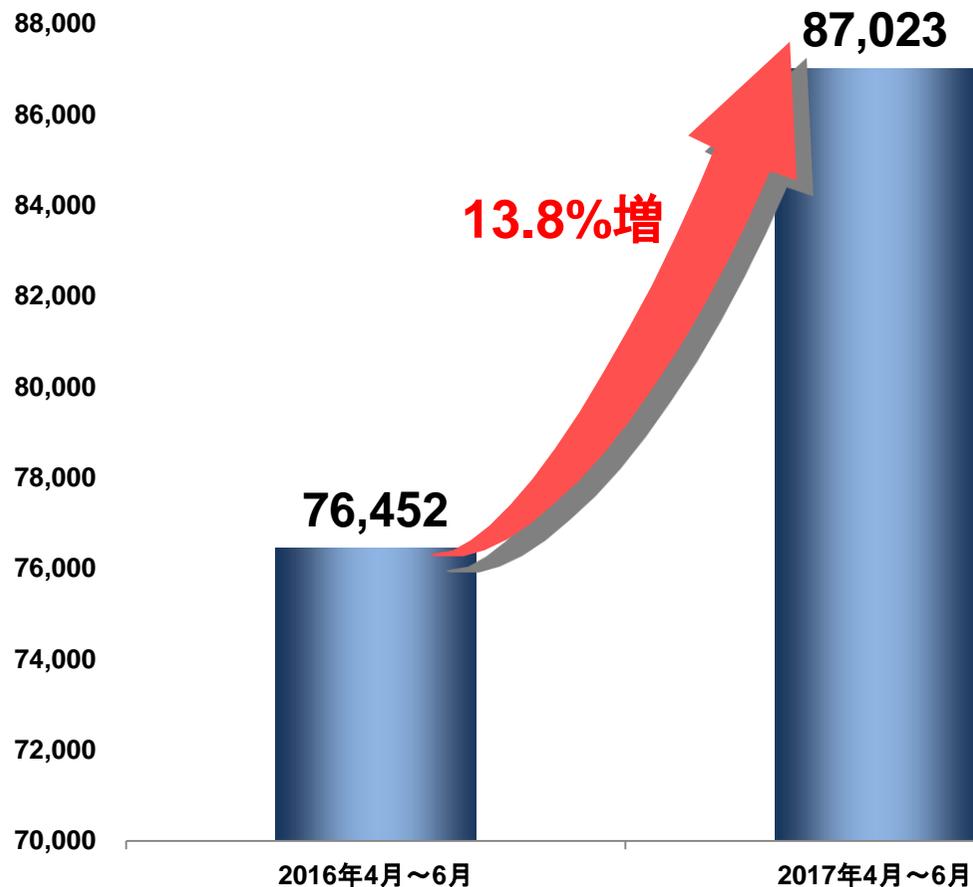
保有投信のリバランス機能



顧客に最適な商品を提供するために モーニングスターの分析レポートを活用

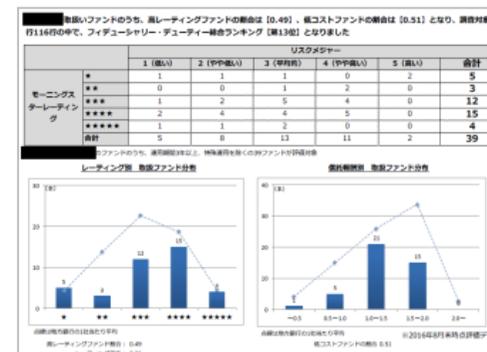
＜ファンドレポートの売上高＞

(単位:千円)

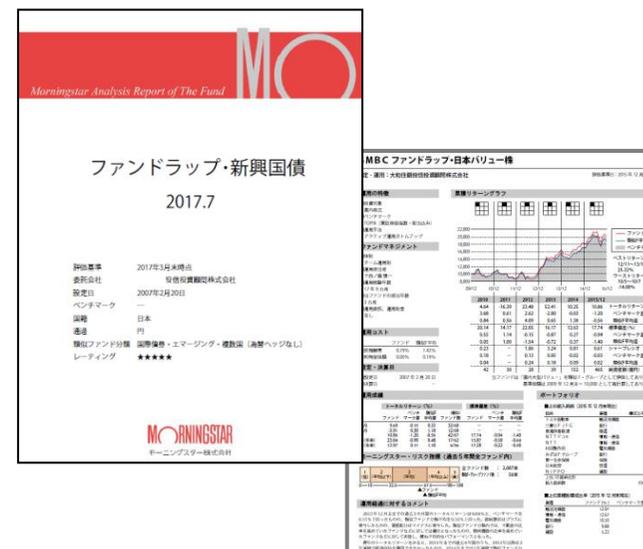


＜顧客に最適な商品を提供するために＞

・ラインナップ分析



・ファンドモニタリング



販売金融機関の

「顧客本位の業務運営の確立・定着」に向けたサポート

(事例)商品ラインナップの分析、拡充のため、モーニングスターの評価情報を活用

■三井住友銀行

■りそな銀行

【表1.0】投資信託に関する管理プロセス<銀行>

	時期	項目	内容
導入時	随時	定性分析評価	モーニングスターによる、 <u>運用調査体制の充実度や運用管理体制等、主に定性面を含めた評価を実施</u>
	日次	騰落率チェック	基準価額の騰落率を日次でチェック
運用開始後	月次	異常値確認	基準価格・分配金に関する異常値の有無を管理
	四半期	継続的な定量分析	野村ファンド・リサーチ・アンド・テクノロジーの定量分析による運用状況のモニタリングを実施 マーケット環境がパフォーマンスに与える影響や留意すべきリスク等の営業店への情報提供
	年次	詳細な定量・定性分析	定量分析に加え、野村ファンド・リサーチ・アンド・テクノロジーによる運用会社インタビュー等を通じた詳細モニタリングを実施し、結果に応じて運用会社へ改善提案を実施
		モニタリング	モーニングスターによる、 <u>取扱い全ファンドについて定量・定性両面から5段階評価を実施し、広範な観点から異常値をチェック</u>

商品・サービスの競争力強化

系列にとらわれず、お客さまにとって最適な商品ラインアップを目指した商品選定

- 独立系の強みを活かし、系列にとられない商品選定を行っています。商品導入の際には複数商品の運用実績や組織体制、コストを比較し、お客さま目線で採用商品を決定しています。
- 競争力のある商品ラインアップを維持するため、半年に1度、商品の運用実績や組織体制について外部評価会社の評価を受けています。評価が低い商品の販売を取りやめるなどの対応を取っています。

外部評価会社による投資信託の評価※6

対象	評価割合 (%)
全ファンド	20%
りそなグループ	26%

※6 モーニングスター社がレーティングを付与するファンドのうち、★★★★以上のファンド比率(2017年3月末現在)
モーニングスター・レーティングは、世界27ヶ国に展開する投資評価機関のモーニングスター社が、国内公募追加型株式投資信託を対象に、過去(最低3年以上)の運用実績から評価が優れている投資信託を★の数で表しています。1つ星から5つ星まであり、5つ星(★★★★★)が最も高い評価となります。

(事例)商品のわかりやすい説明にモーニングスターのタブレットアプリ「投資信託INDEX」を活用

●琉球銀行

4. 重要な情報の分かりやすい提供

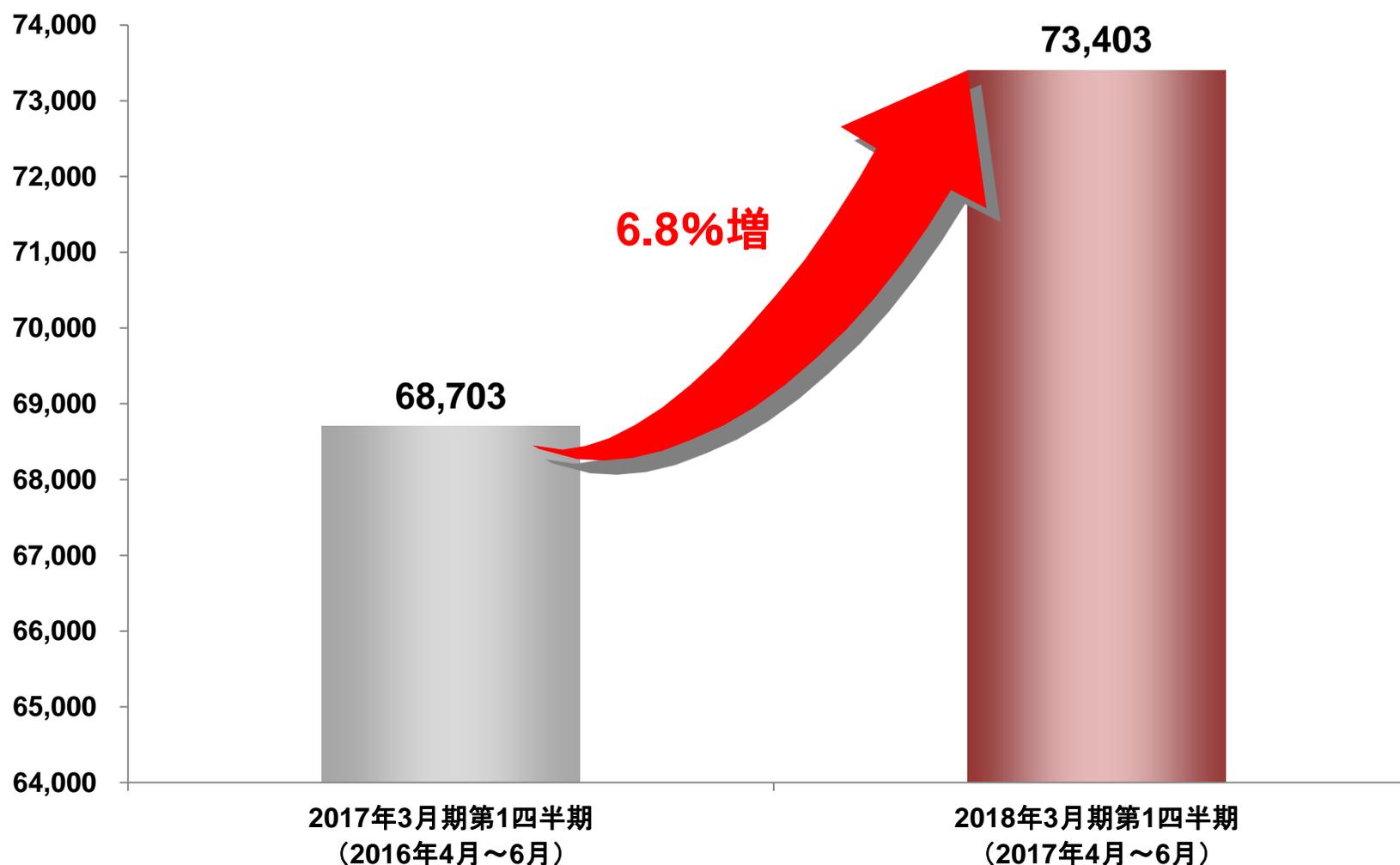
- 当行は、投資性商品のご提案にあたってお客様に分かりやすい情報提供に努めます。
- お申込みをいただく商品の重要事項については、特にお客様のご理解の促進と確認に努めます。
- 商品をご購入いただいた後もお客様の投資判断に必要な情報をご提供する等、タイムリーかつ丁寧なアフターフォローを行います。

<具体的な取り組み>

- 投資信託のご説明、ご提案にあたっては、既製の販売用資料のみならず独自の情報提供アプリ「投資信託 INDEX」を活用し、シミュレーションや図表等を用いて分かりやすい情報提供、ご説明に努めております。
- 商品のお申込みを頂く際には、テレビ電話システム Skype を活用して本部専門部署がお申込み商品の重要事項に関するお客様のご理解の促進と確認を行っております。
- 投資性商品アフターフォロー方針を定め実践するとともに、セミナー等を通じて適時適切な情報提供を行っております。

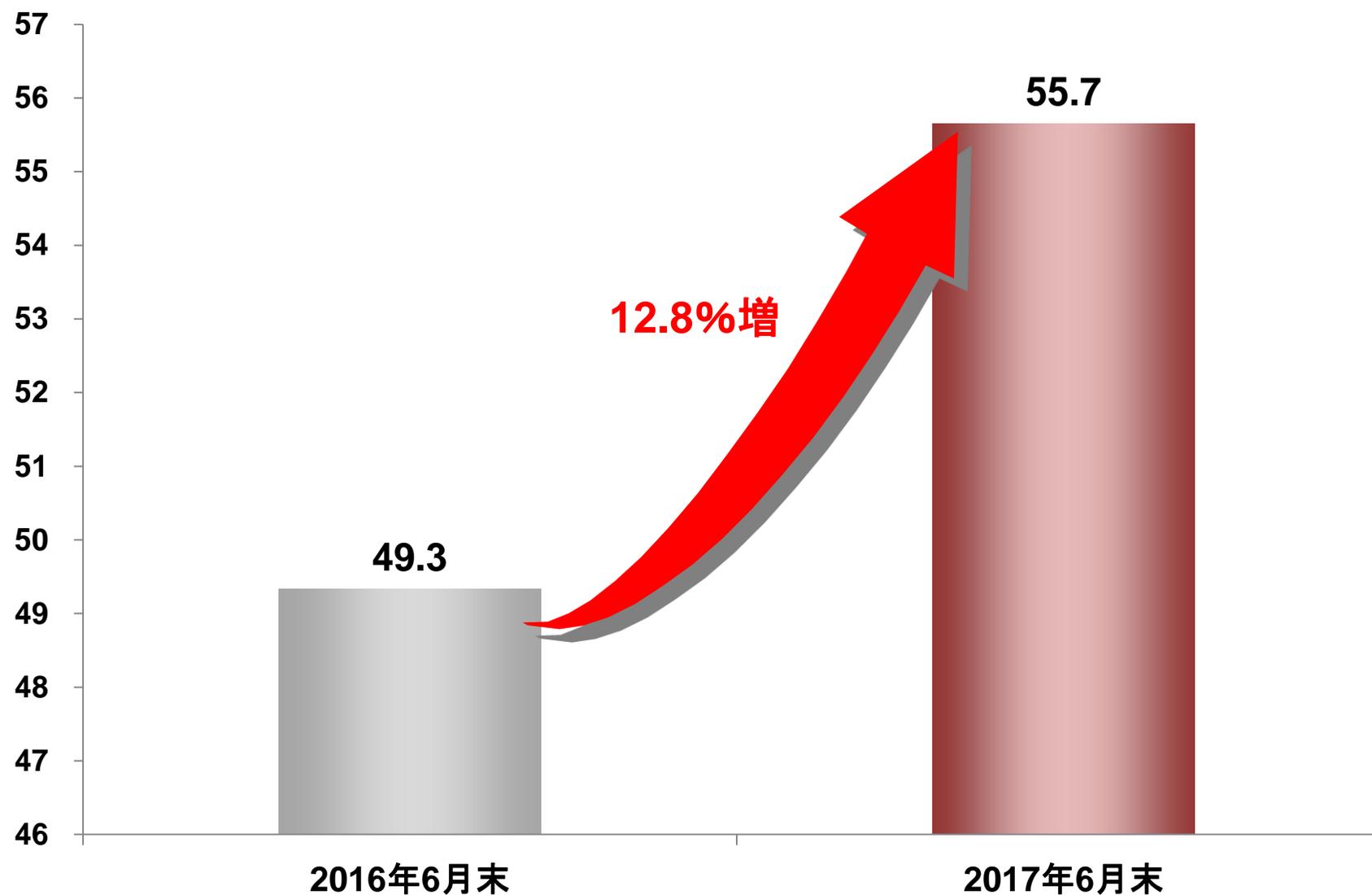
拡大するモーニングスターウェブサイトのページビュー

(単位:千ページビュー)



スマートフォンアプリのダウンロード数は55万を突破

(単位: 万ダウンロード)



世界の指数情報を大幅に拡充、100以上の指数が閲覧可能



■世界のマーケットがひと目で分かる

- ・幅広い国、資産クラス(債券, REIT, 商品等)をカバー
- ・スマホ向けアプリでも登録可能

■分散投資啓蒙ツールとしての役割

- ・分散投資シミュレーションがより便利に

<仮想通貨価格情報を続々と配信開始>



ビットコイン : (既に提供開始)



イーサリアム : (既に提供開始)



リップル(XRP) : (7月21日提供開始)

SBIアセットマネジメントの業績

(単位:千円)

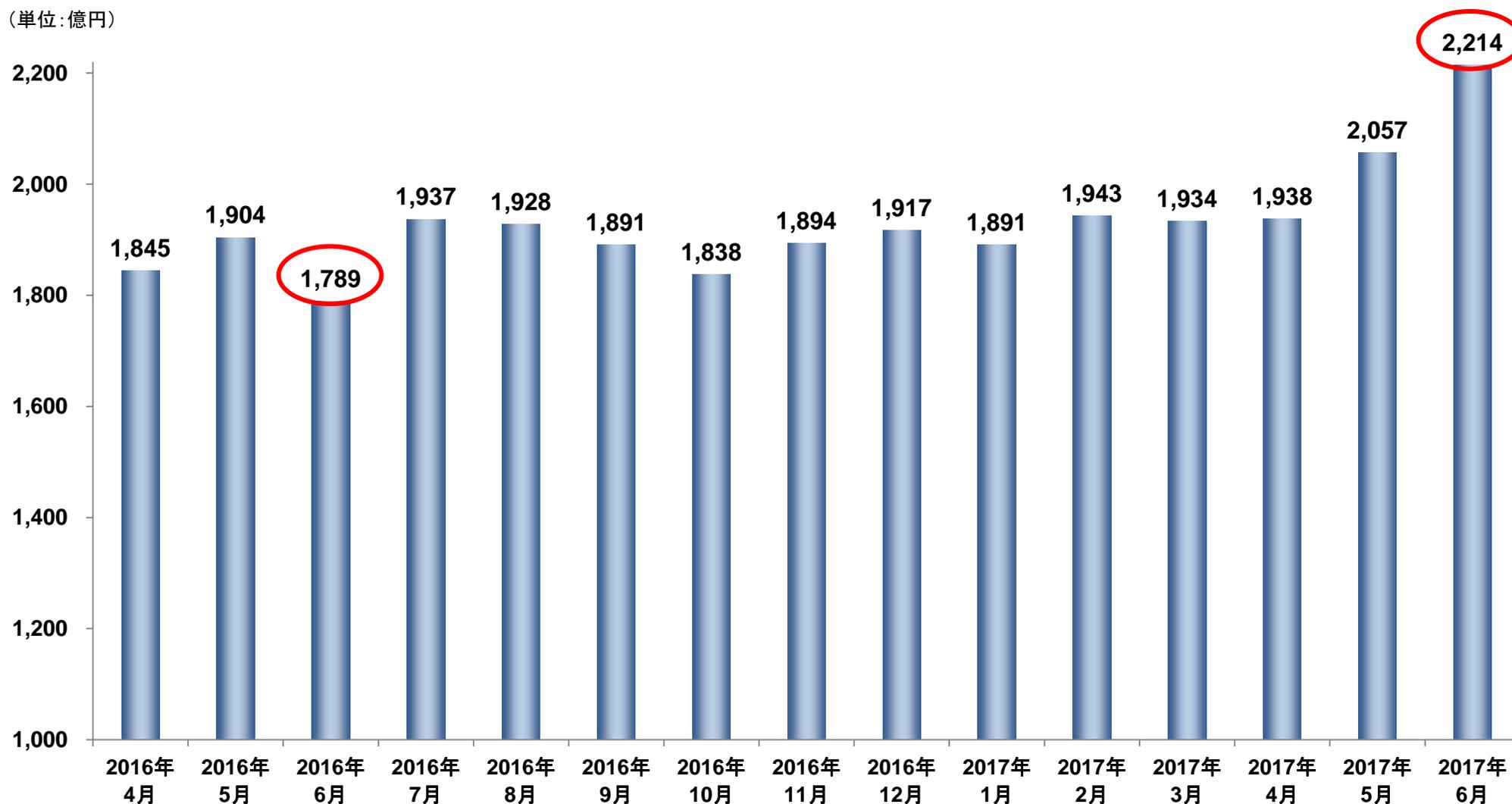
	2017年3月期 第1四半期 (2016年4月～6月)	2018年3月期 第1四半期 (2017年4月～6月)	増減率(%)
売上高	405,686	740,234	82.5
営業利益	88,135	129,501	46.9
経常利益	88,411	129,308	46.3
当期利益	61,036	84,758	38.9

※ 子会社SBI Fund Management Company S.A.を連結した数値。

SBIアセットマネジメントの運用残高の推移

2017年6月30日現在の純資産残高=2,214億円

(単位:億円)



主要ファンドの資金流入状況

【2017年4～6月の純資金流入額トップ5ファンド】

(単位:億円)

順位	ファンド名	純資金流入額
1	グローバル・リート・トリプル・プレミアム・ファンド (毎月分配型)(愛称:トリプル・プレミアム)	117
2	中小型割安成長株ファンド ジェイリバイブ (『jrevive』、『jrevive II』)	72
3	SBI 日本株3.7ベア	32
4	SBI 日本・アジアフィンテック株式ファンド	30
5	小型成長株ファンド ジェイクール (『jcool』『センバツ』)	17

SBI日本・アジアフィンテック株式ファンドの設定

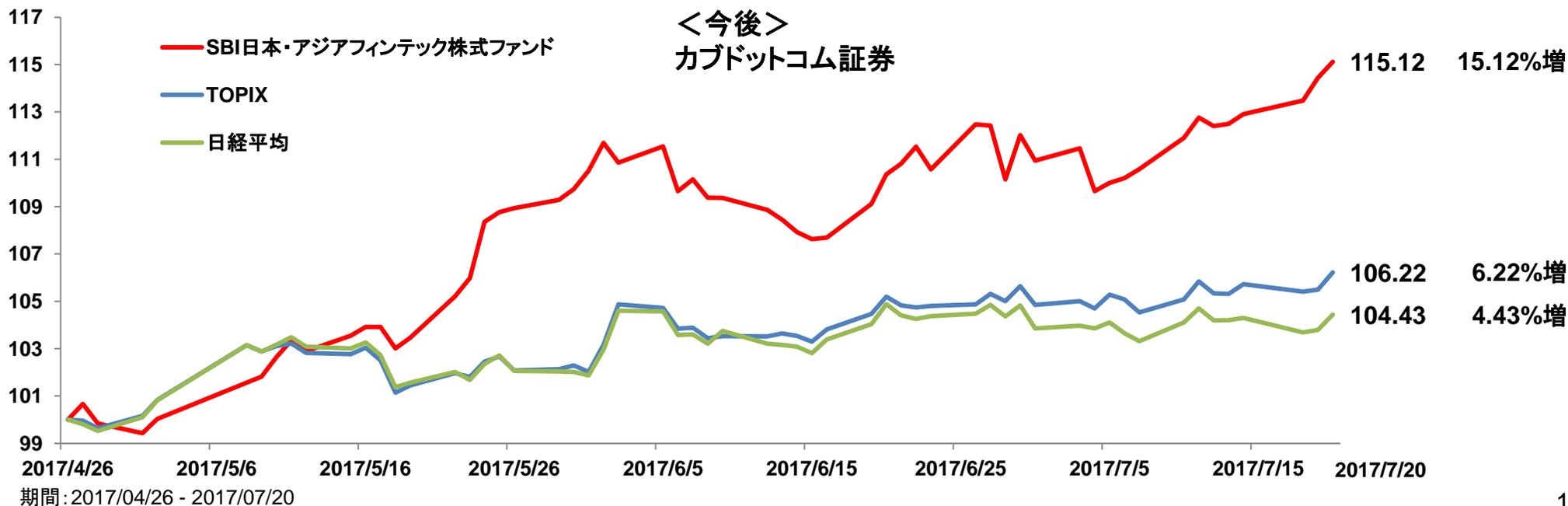
(設定日:2017年4月27日)



- 日本を含むアジアの株式の中からフィンテック関連分野において高い成長が見込まれる企業の株式等に投資。
- 銘柄選定は、モーニングスター・アセット・マネジメントによる投資助言。

	(2017年7月20日付)
基準価額	11,512円
純資産	3,618百万円

■ パフォーマンス比較

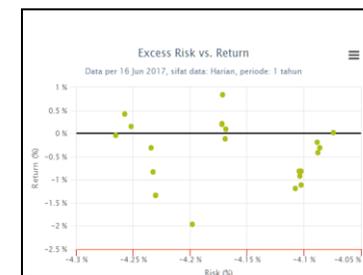


MSクレジットリサーチのポジションニング

	米系格付会社	日系格付会社	MSクレジットリサーチ
評価対象数	150社以内	500~600社	3,000社以上
評価信用カレベル	投資適格レベル	投資適格レベル	全信用カレベル
評価用途	債券中心	債券中心	多用途
評価利用顧客	機関投資家	機関投資家	機関投資家+個人投資家+企業
収益対象顧客	ほぼ発行体	ほぼ発行体	評価利用顧客

インドネシアの子会社はデータベースを拡充

投資信託に加えて、新たに株式、債券、変額年金のデータベースの構築が完了



金融機関

1. 投信データの自動更新機能付きWEBプラットフォームサービス
2. 販売ファンド選定用の定量分析データ

BNI証券から初の受注

※ 上図の銘柄数は2017年6月20日時点

Part 2

当社のフィデューシャリー・デューティー支援サービス

フィデューシャリー・デューティーにおける モーニングスターのプレゼンス

2011年12月16日
金融審議会での提言、「投資信託に関する現状の課題と対応」



主な課題の指摘事項

- ・一時的なテーマ設定に基づく営業スタイル
- ・毎月分配型の分配競争による弊害
- ・販売会社と運用会社の系列構造がもたらす弊害
- ・短命投信量産の弊害

2017年4月14日
「iDeCo」や「積立NISA」の普及・促進として、
スマートフォンを活用した若年層への施策についての提言。

モーニングスターウェブサイト
利用状況

2017年4月14日(金)
モーニングスター株式会社

スマートフォンサイト:ファンドのアクセスランキング
純資産残高の多いファンドがアクセス数上位

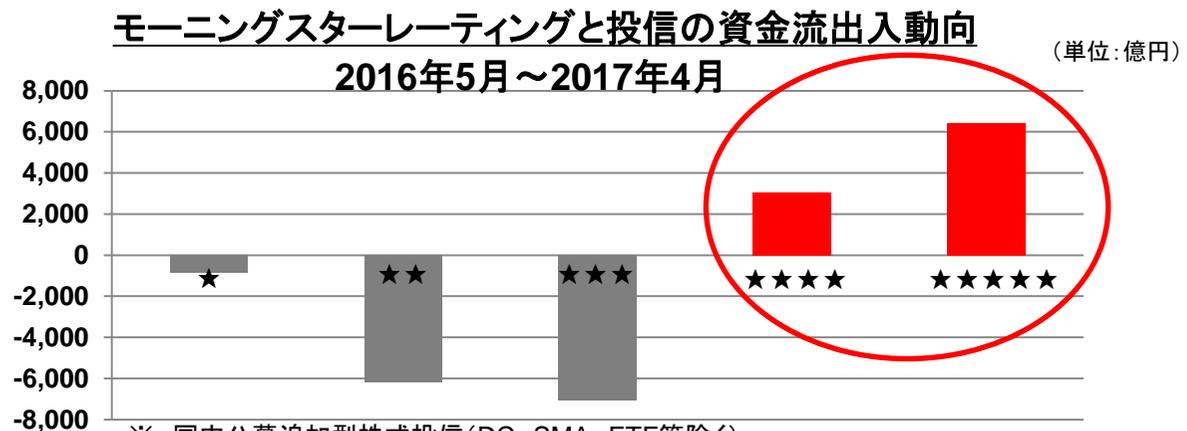
順位	ファンド名	ページビュー (1億2千万)	純資産残高 (億円)
1	国内債券	48,824	1,418,757
2	国内株式	21,824	931,117
3	海外債券	18,889	1,047,268
4	新興国債券	12,229	1,314,107
5	国内株式	9,216	640,113
6	海外株式	8,160	299,895
7	国内債券	8,004	710,189
8	海外株式	6,868	110,366
9	国内債券	6,424	137,543
10	海外債券	5,844	268,911
11	海外株式	5,782	489,875
12	国内債券	5,712	686,058
13	海外債券	4,997	451,416
14	国内債券	4,936	70,726
15	海外株式	3,835	291,684
16	国内債券	3,796	31,918
17	海外株式	3,432	268,684
18	国内債券	2,282	207,287
19	海外債券	2,244	24,464
20	国内債券	2,195	49,889

2017年6月7日
「顧客本位の業務運営」に関する
各金融機関の特徴ある取り組みについての説明

「顧客本位の業務運営」に関する
各金融機関の特徴ある取り組みについて

2017年6月7日
モーニングスター株式会社
代表取締役社長 朝倉智也

金融庁「金融・資本市場活性化有識者会合意見書」(2015年6月30日)から抜粋
投資信託の評価情報は、顧客にとっての最適な商品・サービスの選択を容易にする観点から積極的な活用が期待される。



※ 国内公募追加型株式投信 (DC、SMA、ETF等除く)
※ 出所:モーニングスター作成

モーニングスターのフィデューシャリー・デューティー対応サービス

■レポート: 販売金融機関の取扱いファンドのモニタリング、新規取扱いファンドのレポート

■Fiduciary Duty

- ・ファンドのモニタリング
- ・ラインナップの見直し
- ・新規ファンド導入時の選定

・モニタリング

・デューデリジェンスレポート



・ファンドレポート



■データ提供: 第三者評価情報の活用、情報の非対称性の解消

■Fintech

- ・販売ツールの見直し
- ・適切な情報開示、ツール提供

・タブレットアプリ



・PC/スマホデータ提供



・ロボ・アドバイザー



・積立投資ツール



・保険ツール



■セミナー: 投資信託販売員の知識、提案力の向上

■Financial Education

- ・販売員のアドバイス力の向上

・販売会社向けセミナー



・ポートフォリオゲーム



・Eラーニングツール

